

新領域創成科学研究科

I	研究水準	研究 12-2
II	質の向上度	研究 12-3

I 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、教員一名当たり 3.6 件の原著論文を発表しており、また、基調講演等は一名当たり 5 件を超えている。内外で当該分野が注目されている状況が見受けられる。平成 19 年度の特許出願 56 件、特許取得 8 件であり、大学発ベンチャー企業「アドバンスト・ソフトマテリアルズ」が設立され、産業界への技術移転もなされている。研究資金の獲得状況については、平成 19 年総額 32 億円を超えており、予算配分面からも評価を得ている。共同研究実施状況は教員一名当たり 2.6 件であり、3 件の寄付講座を得て産業界との共同利用も進められている。また、他機関との連携講座も 15 講座に及んでおり、学融合を促進していることなどは、優れた成果である。

以上の点について、新領域創成科学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、新領域創成科学研究科が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

2. 研究成果の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、物性物理、材料、バイオ、コンピューターグラフィックス等の分野で先端的な研究成果が生まれており、卓越した研究成果として、CG によるリアル表示法、生物のフェロモン、高温超伝導材料中の電子の挙動等があり、特筆すべき成果を上げ、国際賞等を授賞している。平成 19 年度は、21 件の国内外の賞を受賞している。社会、経済、文化面では、「多様性の起源と維持のメカニズム」、「自然環境の評価と育成」等学融合分野において成果が上がっていることなどは、優れた成果である。

以上の点について、新領域創成科学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、新領域創成科学研究科が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している

当該組織から示された事例は1件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」と判断された。